

ラテン・アメリカ政経学会 2023 年度会員総会議事要録

日時：2023 年 11 月 26 日（日）13：20～14：40

会場：東洋大学白山キャンパス 5 号館 5404 教室

出席者：会場内 24 名、オンライン 7 名、委任状 57 名、計 88 名

審議に先立ち、出席者数が定足数を満たしていることを確認した。村井友子氏を議長に、中村久美氏を書記に選出した。

報告事項

1. 『ラテン・アメリカ論集』第 57 号の編集について幡谷則子理事から資料 1 に基づいて報告があった。
2. 2023 年度研究奨励賞について、浜口伸明理事長から、本年度は他薦が 1、自薦が 1 あり、浦部浩之氏、小池洋一氏、宇佐見耕一氏を選定委員として審査が行われたが、授賞対象業績はなかったと報告があった。
3. 会員の入退会について、浜口理事長から 5 名の新入会があり、12 名の退会者と 6 名の除名者があったため、総会員数は昨年度総会時から 13 人減少して 141 人であると報告があった。合わせて、正会員が 120 名、シニア会員が 9 名、学生会員が 12 名であると報告があった。
4. 浜口理事長から、2024 年全国大会は龍谷大学（京都市）で開催する予定であると報告があった。
5. 事務局担当の坂口理事より、事務手続きのオンライン化を進めていることと、2022 年度会員総会で決定したとおり在外会員からの会費徴収を 2024 年度から実施することについて報告があった。

審議事項

1. 2022 年度活動報告について浜口理事長から資料 2 に基づいて説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

2. 2022年度会計について資料3に基づいて村上善道理事から報告があり、森口舞監事が、監査の結果問題がなかったことを報告した。審議の結果、原案通り会計報告が承認された。
3. 会計年度の変更について、浜口理事長から資料4に基づいて4月～翌年3月の現行の会計年度を改めて1月から12月を本学会の会計年度とする提案があり、審議の結果、原案通り承認された。
4. 2023年度事業計画と同予算案について、浜口理事長から資料5および資料6に基づいて説明があった。審議の結果、原案通り承認された。
5. 2024年度事業計画と同予算案について、浜口理事長から資料7および資料8に基づいて説明があった。創立60周年記念事業として、ウェブサイトのリニューアル、『ラテン・アメリカ論集』での特集企画の編集、海外研究者の招へいを実施することが提案された。資料8について、会費収入が900,000円に、印刷費・編集費が400,000円に、支出合計が2,200,000円に、それぞれ修正された。審議の結果、修正案通り承認された。
6. 学会規約および要綱・規程の改正について、浜口理事長から補足資料に基づいて改正の必要性と概要について説明があった。学会規約について、浜口理事長から資料9に基づいて理事、理事長の選任、会費の改定等に関する条文の変更の説明があった。審議の結果、会場出席者の挙手、オンライン出席者の投票、委任状により、出席者の3分の2以上の賛成（学会規約18条）があり、原案どおり承認された。
7. 理事選挙実施要綱の改正について、浜口理事長から資料10に基づいて条文の変更点の説明があった。審議の結果、会場出席者の挙手、オンライン出席者の投票、委任状により、出席者の過半数の賛成があり、原案通り承認された。
8. 『ラテン・アメリカ論集』の投稿受付体制と投稿規程の条文の変更について、幡谷理事から資料11に基づいて説明があった。改正案2.の(5)で「規定」を「規程」に置き換える修正が指摘され、指摘箇所を修正のうえ審議した結果、会場出席者の挙手、オンライン出席者の投票、委任状により、出席者の過半数の賛成があり、原案が承認された。
9. 研究奨励賞規定を顕彰規程と名称を変更して内容を変更する提案について、浜口理事長から資料12に基づいて条文の変更の説明があった。改正日2023年11月26日の記載漏れが指摘された。指摘箇所を追加して審議した結果、会場出席者の挙手、オンライン出席者の投票、委任状により、出席者の過半数の賛成があり、原案通り承認された。

以上